



AI・DX分科会の概要と年間計画

一般社団法人首都圏産業活性化協会

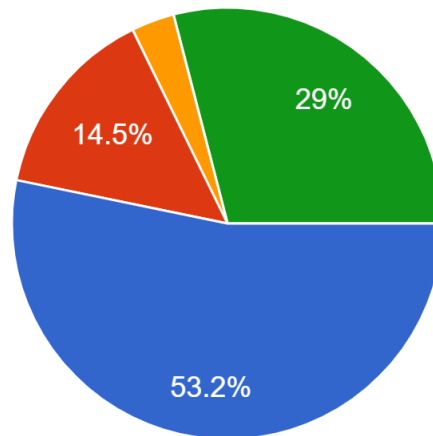
小川 直樹

2025年7月25日(A10版)

DXに取り組む中小企業の割合

● 当協会の会員企業へのアンケート(n = 62)

「デジタルトランスフォーメーション（DX）推進...現在、貴社ではどのような認識をお持ちですか？」
62 件の回答



- 必要性を感じており、今後取り組んでいきたい
- 必要性を感じるが、具体的に何をすべきか分からない
- 現時点では、自社にとっての必要性を感じていない
- 既に取り組んでおり、成果が出始めている
- わからない

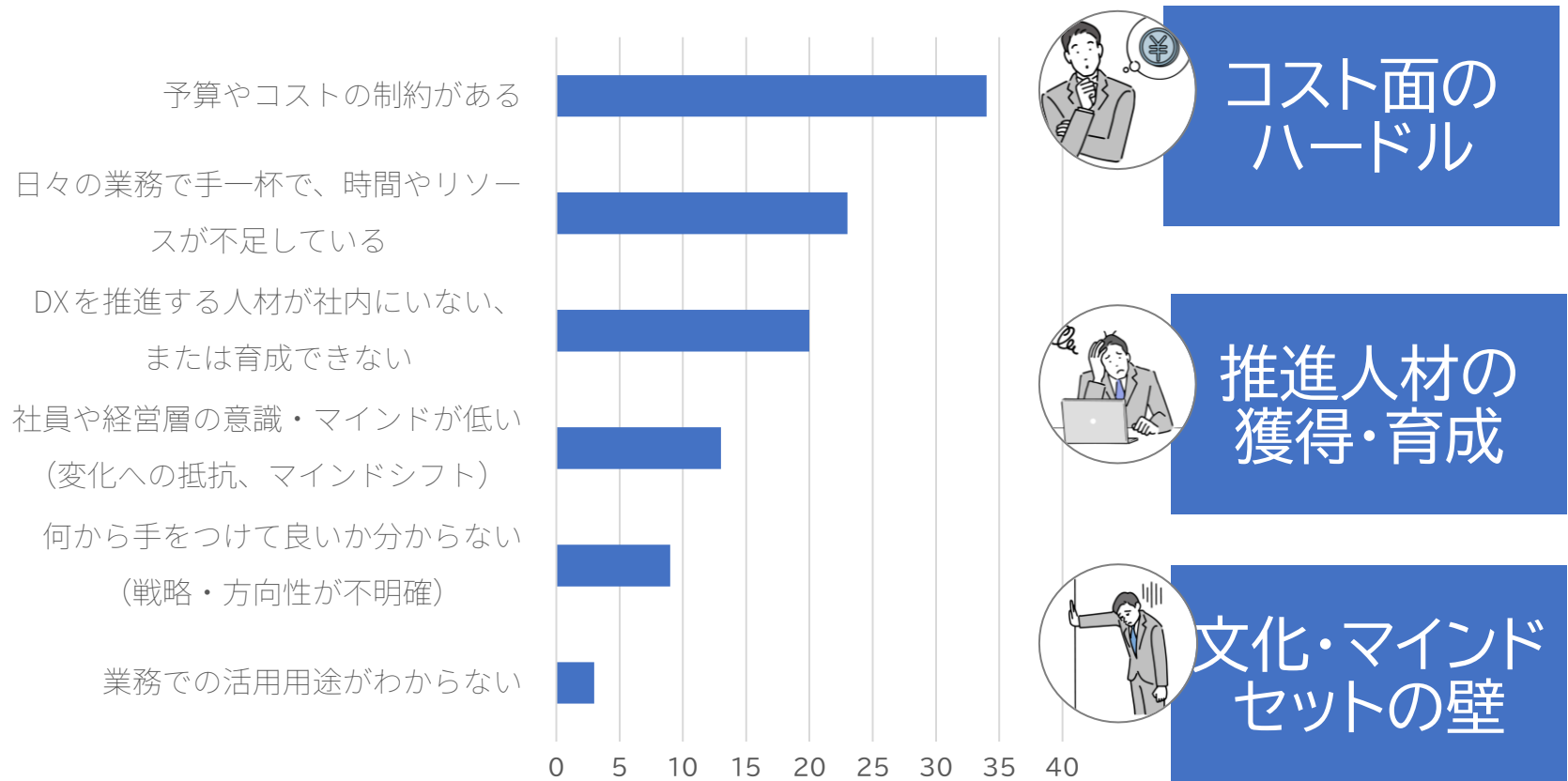
3割の企業が既に取組中

さらに**5割以上**の企業が今後取り組みたいと積極回答

組織のDX推進課題

- 当協会の会員企業へのアンケート(n = 62)

「貴社がデジタル化・DX推進に取り組む上での主な課題は何ですか？」
(複数選択可)



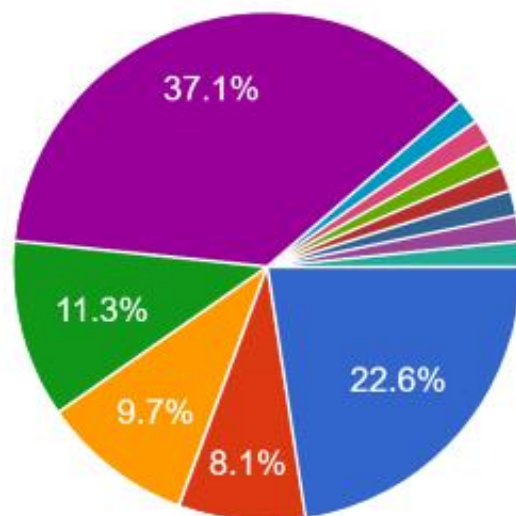
生成AIは中小企業の課題解決の原動力

中小企業の経営課題	AIを活用する理由
 労働生産性が低い	生成AIは 日常業務の自動化 によって、時間とコストを大幅に削減
 予算の制約がある	サブスクリプション型の汎用サービス を用いれば、低コストでテスト導入を始められる。
 慢性的な人手不足	生成AIは、従業員が少人数でも 高い生産性を発揮 できるようサポート
 技術伝承が進まない	生成AIによって、 ベテラン社員が持つ暗黙知やノウハウをデジタル化 し、組織全体で共有
 新製品・サービスの開発が進まない	生成AIによって、 市場調査から顧客ニーズの分析、アイデア創出、プロトタイプ設計 を支援

中小企業のDX推進・AI活用における課題

DX推進やAI活用を担う人材の育成・確保において、貴社が最も課題と感じていることは何ですか？

62件の回答



- 必要なスキルや人材像が明確に定義で...
- 社員が自ら学ぼうとする意欲が低い (...)
- 学んだことを実践する機会や環境がない
- 学びの成果が評価や処遇に反映されに...
- 育成・確保のための予算・時間が不足...
- 実務との兼任
- 特にありません
- まずは一人一人AIを使うことを実行し...



予算・時間の
不足



必要なスキル・
人材像の定義



学びの成果の
評価

AI活用に必要な人材像

- 求められるのは、AI活用を推進する「中核人材」

中核人材



- 業務管理に精通し、業務プロセスの見える化やプロセス改善を企画できる。
- デジタルツールに精通し、要件定義をして、ツールの選定から導入を企画できる。
- デジタルツールの活用を従業員に浸透させるリーダーとなれる。

業務人材

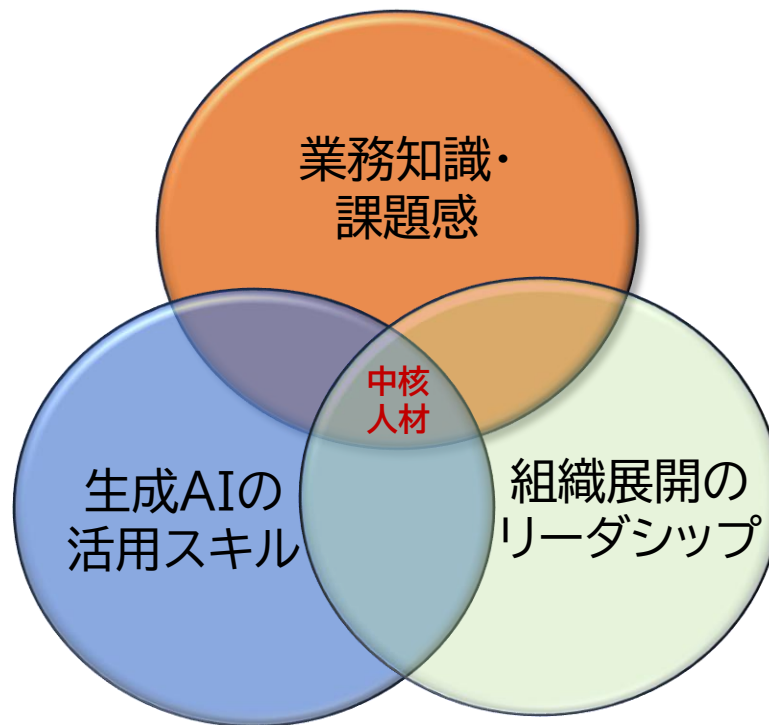


- デジタルツールや活用方法に関する研修により、デジタルツールを使いこなせる。
- 生産・サービス提供の現場からフィードバックや提案ができる。

(出典)中小企業庁、「中小企業・小規模事業者人材活用ガイドライン」、p.12

AI活用の「中核人材」内製化のススメ

社内でAI活用の「中核人材」を育成することによって、
中小企業の競争力を飛躍的に向上できる。



「中核人材」内製化の効果

1. 業務知識・課題感がベース

業務知識と課題感を持っているから、
適格なユースケースを見つけられる。

2. コスト削減

短期的には教育コストがかかるが、
中長期的には、従業員の業務改善や
生産性向上のリターンが大

3. 組織風土の改善

中核人材による組織展開の活動を通じて、
従業員が相互に学び合う
環境を誕生
(cf. AI時代のQCサークル)

AI・DX分科会の目的



企業間交流と
若手ネットワー
ク形成

- 異業種・同業他社との知見共有
- 定期的なセミナーの開催
- 若手同士の交流会



生成AI活用の
ユースケース
体験

- ユースケース体験のワークショップ
- 実際の業務におけるユースケース体験を通じて成功事例を蓄積
- 各社の取り組みの成果発表



中核人材
の育成

- 各社にて、AI活用の「中核人材」となる人材の育成
- 自社業務への適用経験を通じて、中核人材がリーダーシップを発揮

体制・開催形態



担当理事／リーダー

副会長 市川敦士
(株)イチカワ 副社長



事務局

TAMA協会 小川直樹



開催形態

- ①セミナー(無料・啓発)
- ②ワークショップ型研修(一部有料)
- ③個社ハンズオン支援 (有料)



開催頻度

- ・ 年4回ペース
(概ね3ヶ月に1回)

特徴

- ・ 生成AIによる生産性向上を核に人材を育成
- ・ 「何期生」制度で卒業後も継続学習を維持する。

参加条件・参加費用

参加条件

- ・分科会を営業活動の場として、**自社製品・サービスを売り込むことはNG**とする
- ・ワークショップへの参加にあたっては、基本、協会会員にご加入いただく。
- ・セミナーは、非会員も参加可能。

参加費用

- ・ワークショップの会場費用など運営に関わる諸経費は、参加者に均等にご負担いただくものとする。
(来年度以降は年会費制も検討する)

年間のスケジュール



WS	テーマ & 学習ゴール	演習ハイライト	主なアウトプット
1	生成AIの基礎理解と活用全体像 原理とトレンドを把握し、自社業務への適用ポイントを俯瞰	業務活用のユースケース体験	自部署"できる／できない"マッピングシート
2	プロンプトスキル実践 & ライブラリ構築 主要ツール比較とセキュリティ要件を踏まえ、15本のプロンプトをテンプレ化	ChatGPT／Claude／ Gemini 3ツール比較 & ハンズオン	部門別プロンプトライブラリ（15本）
3	ユースケース体験 販売データ分析・議事録生成・チャットボットから1テーマを選択しPoC完遂	"選択制ハンズオン"＋効果測定ワーク	PoCレポート&改善サイクル表
4	成果発表会 参加各社がWorkshop1-3の内容を振り返り、各社内での生成AI展開計画を作成	社内展開計画の作成・発表	生成AI社内展開計画書

参加前のご準備事項

1. ワークショップ1～3の参加者アサイン

- ・ 各社からAI・DX推進に関わるメンバーを選出してください
- ・ 役割例: 現場の業務推進者 + IT担当者

2. 生成AI企業向け有償ライセンスの取得

- ・ 情報セキュリティの観点から、無償ライセンスの利用はNGとし、個人用有償ライセンスの利用も極力避けたいと思います。
- ・ 会社の既存OA環境との親和性などを考慮して、下記のいずれかの有償ライセンスをご準備ください。

ライセンス名	価格(税抜)	特徴
ChatGPT Team	月額 30 USD／ユーザー	汎用用途で使える
Google Workspace Business Standard	月額 1,900 円／ユーザー	Googleアプリとの親和性高い 大量データの処理に向く
Microsoft 365 Copilot	月額 4,497 円／ユーザー(Microsoft 365のアドオン)	Microsoft OfficeやOne Driveとの親和性高い

Workshop1:生成AIの基礎理解と活用全体像

- 日程: 2025/8/29(金)
13:30~16:30
@たま未来メッセ第6会議室

講義パート



生成AIの原理

- 従来のAIと生成AIの違い
- LLMの構造と学習方法
- プロンプトと出力の関係性



最新トレンド

- マルチモーダル対応の進化
- 企業向けカスタムAIの普及
- プライバシー&セキュリティ対策



活用ポイント

- 反復タスクの自動化領域
- 創造的思考の支援方法
- 人間+AIの最適な役割分担

演習メニュー

製造業におけるユースケースを参考に自社のユースケースを検討

製造業での生成AI活用事例を分析し、自社業務への具体的な適用可能性を評価します。

成果物



自社"できる／できない"マッピングシート

生成AIで実現可能な業務と現状では適さない業務を分類し、優先順位づけを行います。

✓ できること

- 定型文書の自動生成
- 情報要約・分類
- 基本的な質問応答
- コンテンツのアイデア出し

✗ できないこと

- 100%正確な情報提供
- 高度な意思決定
- 機密情報の処理
- 感情を伴う判断

Workshop2: プロンプトスキル実践 & ライブラリ構築

■ 日程: 10月下旬

◎ 目的

"運任せ出力"から"品質をコントロールできる出力"へ転換し、再現性の高い業務テンプレを整備



運任せ



コントロール

📄 成果物

部門別プロンプトライブラリ (15本)

📁 各業務に特化した再利用可能なテンプレート集

ツール比較チャート

📊 各AIツールの特性・コスト・セキュリティ評価

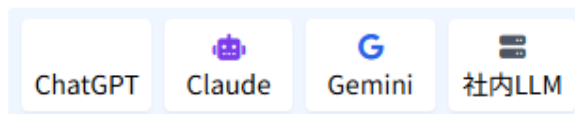
AI利用のための社内ガイドライン

🛡️ 機密情報保護と安全な活用のためのガイドライン

🗣️ 講義 & 演習構成

1 ツール選定フレーム

ChatGPT／Claude／Gemini／社内LLM をコスト・ガバナンスで比較



2 プロンプトエンジニアリング基礎

SITUATION・TASK・ACTION・RESULT (S-T-A-R) 型で精度を底上げ

S-T-A-R構造例:

あなたは営業資料作成の専門家です。(S)
新規顧客向けプレゼン資料を作成してください。(T) 業界トレンドと自社強みを強調し... (A)

3 AIアシスタント作成

GPTs／Gems で"型化"し全社展開可能に

4 ハンズオン

各自業務に沿った15本のプロンプトを作成
→テスト→ブラッシュアップ

Workshop3: ユースケース体験

■ 日程: 2026年1月下旬

🕒 ① 販売データ分析

ハンズオン内容

- ✓ AIによる異常値検出 & レポート自動生成
- ✓ 季節変動パターンの検知と予測
- ✓ 顧客セグメント別の傾向分析

効果測定ポイント

- 🕒 分析時間短縮率
- 💡 洞察数

📄 ② 議事録生成

ハンズオン内容

- ✓ 音声→文字起こし→要点抽出→To-Do自動化
- ✓ 話者別の発言整理と要約
- ✓ 重要決定事項とアクションアイテムのハイライト

効果測定ポイント

- 🕒 記録所要時間
- ❗ 抜け漏れ率

💬 ③ チャットボット

ハンズオン内容

- ✓ 製品Q&Aを学習させ応答精度を検証
- ✓ 顧客向け／社内向けシナリオの作成
- ✓ エスカレーションフローの設計と実装

効果測定ポイント

- ✓ 初回解決率
- ⚡ 応答速度

成果発表会

■ 日程：2026年3月上旬

🔄 Workshop 1-3の振り返り

- W1 生成AIの基礎理解と活用全体像
学んだポイントと自社への適用可能性を再確認
- W2 プロンプトライブラリ構築
作成したプロンプトの効果と改善点を分析
- W3 3ユースケース体験
検証結果と実務での応用方法をまとめる

📅 各社展開計画作成

「自社生成AI活用ロードマップ」の策定

- | 短期（3ヶ月） | 中期（6ヶ月） | 長期（1年） |
|----------------|-------------|-------------|
| 優先度の高い業務での試験導入 | 部門横断展開と効果測定 | 全社展開とシステム連携 |



🗣️ 発表・フィードバック

各社発表（15分 × 社数）
自社特有の課題・機会と実現計画

発表内容

- ・自社の現状と課題
- ・優先活用業務と目標
- ・具体的な展開ステップ
- ・期待効果とKPI設定

フィードバック

- ・講師からの助言
- ・他社参加者からの質問
- ・改善ポイントの特定
- ・成功確率向上策の共有

📄 成果物

🗺️ 自社生成AI活用ロードマップ
3ヶ月～1年の段階的展開計画

📊 効果見積と予算計画
定量的なROI試算と必要投資額

📄 経営層向け提案資料
自社内での展開承認に使える資料一式

© 2025 MRBA研修企画PJ

ありがとうございました

- 分科会への申し込みはこちらから

<https://www.tamaweb.or.jp/subcommittee>



- Youtubeでのデモプロ公開



<https://www.youtube.com/@tama.techyoko2025>